

会 議 録

1 会議名

平成30年度第13回中郷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）報告（公開）

第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について

（1）協議（公開）

自主審議事項について

（2）その他（公開）

3 開催日時

平成31年3月20日（水）午後6時30分から午後8時5分まで

4 開催場所

中郷区総合事務所 第4会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員：岡田雅範、坂田浪平、高橋京子、高橋達也、竹内靖彦、古川由美子
松原功
- ・ 総務管理部：行政改革推進課 竹下智之副課長、小酒井伸一係長
- ・ 事 務 局：中郷区総合事務所 木村雄二所長、小嶋淳一次長、城戸俊夫市民生活
・ 福祉グループ、教育・文化グループ長
総務・地域振興グループ 丸山良彦班長、藤井寿季主事
教育・文化グループ 吉原俊美班長

〔 以下、総務・地域振興グループは総務G、市民生活・福祉グループは
市民G、教育・文化グループは教育G、グループ長はG長と表記 〕

8 発言の内容（要旨）

【丸山班長】

- ・会議の開会を宣言

【高橋会長】

- ・挨拶

【丸山班長】

- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【高橋会長】

- ・会議録確認：「竹内靖彦」委員と「坂田浪平」委員に依頼。

【高橋会長】

始めに、報告事項（1）の「第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について」報告する。本日は、木田庁舎より行政改革推進課の竹下副課長と小酒井係長が来られているので、この件について説明を求める。

【竹下行政改革推進課副課長】

- ・資料No.1に基づき説明

【高橋会長】

今ほどの説明について質問・意見等を求める。

【高橋会長】

1点お聞きしたいのだが、資料に記載されている「人口減少・少子高齢化の進行」については、行政サービスの選択と集中を図ることで、このことが解消できるという意味合いのことを言っているのか。

【竹下行政改革推進課副課長】

人口減少を取り巻く問題から想定されることは、税収の減少は勿論のこと、他にも働く人が少なくなることにより、企業の活動の活性化が鈍ってくることが考えられる。また、市政運営をしていく上での財政の規模が縮小されていくことが懸念される。この場合、現在皆さんに提供している行政サービスを確保するための財源がなかなか厳しくなってしまうことになる。このため、歳入規模に見合った歳出となるよう選択と集中を図っていかなければならないと考えているところである。

【高橋会長】

当区は上越市から遠方に位置している。集中ということになると、一番困る問題と

しては行政サービスの低下が挙げられる。中心市街地は、歩いてでも行けたりするが、我々は半日仕事を休んで行くことになってしまう。そうすると、本当の意味での行政サービスの低下に繋がってしまうと感じている。むしろ、人口減少をどう食い止めるか対策をしていかなければ、ますます人口は減っていくのではないか。財政がどうのこうのという話のレベルではないと個人的には受け止めている。資料に掲げている「すこやかなまち」とは何なのか疑わざるを得ない行政改革の取組みだと感じている。幾つか拠点を設けた中で、集中するのであればある程度理解はできる。このようなことは、分散した中で集中をしていくべきではないのか。私は常々そう感じている。これが、「すこやかなまち～人と地域が輝く上越～」にどうつながっていくのか、私の中では全く見えてこない。以前、市の組織図を見たことがある。この中には聞いたことがないような部署もたくさんあり、本当に行政改革をしているのかと思うくらい感覚を受け取った。職員数の確保だけでなく、身を削るような改革も行っていたらいいと思う。やはり、このような計画は地元の声を聞きながら進めることが大切だと感じている。是非、上席に私の想いを報告いただき、今後の取組みを進めてもらえればと考えている。

【高橋委員】

13区の中でも遠方に位置している中郷区の住民としては、この資料は温かみを感じられない内容だと肌感覚で感じた。また、行政運営手法の見直しの中に、民間活力の活用が謳われているが、一体どのように活用していこうとしているのか。例えば、適正な職員数を確保するためにAIに仕事を振り分けていくなどの具体的な取組みの姿が全く見えてこない。具体的なことが見えてくれば、中心部だけが重視され私達が置き去りにされてしまうような感覚も無くなるのではないか。

【竹下行政改革推進課副課長】

配布した資料は、概要版ということで内容が簡略された中で説明させていただいた。なお、本編の冊子には具体的な記述も掲載してあるので、内容をご覧のうえ疑問な点は当課へ照会いただいた中で、皆さまと共有していきたいと考えている。

【高橋会長】

このような資料を、一般の市民が細かく目を通すとは到底思えない。また、そのような時間もないのではないか。先ほどの高橋委員からの「温かみがない」という発言はもっともだと思う。

【竹下行政改革推進課副課長】

総合計画では、施策や政策的事業などを盛り込んだまちづくりの方向性を示している。まちづくりをしっかりと行っていくためには、行政改革の計画の部分が厳しい目線で冷たく映るような部分がどうしても含まれてくることになる。経営資源の確保、行財政基盤の確立などを進めていくためには、やはり行政改革の取組みは必要である。このようなことも認識していただきたく、本日説明に伺った次第である。

【坂田委員】

資料の中では明るい展望が見えてこない。このままでは、いずれ住民は辛抱しなければならないところも出てくる気がする。

【竹下行政改革推進課副課長】

全戸配布した資料には財政計画の冊子もあるが、現時点で収支均衡が図れておらず、歳入に対する歳出の不足分は財政調整基金を取り崩して財政運営しているところである。このため、仮に基金がなければ、踏み込んだ事業や施設の見直しなどをしていかなないと、今まで通りの行政サービスを提供できない状況である。

【竹内(靖)委員】

2点お聞きしたい。先ず1点目は地域協議会関係の見直しについてだが、どのような観点でどのような方向性の地域協議会にしていきたいのか、展望があるのであればお聞きしたい。次に、地域振興事業についてだが、補助金を原則5割というのは個人的な見解として腑に落ちない部分がある。地域に対する想いがそれぞれの事業にはあり、当区の場合は小・中学生が事業に参画するという事で、合併当時から13区の中でも先進的に取組みをしてきた。最初から原則5割と決めるのではなく、事業の中身を行政でしっかりと把握し、効果や発展性があるものについては補助率を上げるようにしてもらいたいと思っている。現在、まちづくり振興会では企業からの協賛金や自己財源を確保しながら何とか行っているが、企業数が減り、世帯数も減っていく中、さらに補助金も5割に減っていくことになると、大切なコミュニティ活動が段々と縮小せざるを得ない状況になってしまうことが危惧される。ここ1、2年は何とか凌げても10年、15年先にはほぼ壊滅状態になってしまうのではないだろうか。見直すのであれば、よい方向に見直していただきたい。

【竹下行政改革推進課副課長】

いただいた意見については、担当課にしっかりとつなげていくことにしたい。本日

は、こちらで回答できる部分のみ回答させていただく。1 点目については、現状をしっかりと分析した中で、地域協議会の皆さんと協議のうえ、慎重に制度の見直しを図ってまいりたい。2 点目については地域の実情や補助金の性格など様々な要因があると感じている。また、補助金の位置づけからすると、例えば 10 割補助であれば、それは市が行わなければならない事業ではないかと考えられる。地域が主体となって行う事業に対し、行政が原則 5 割を支援するというのは補助金の基本的な考え方の中で整理されており、補助率の増減は事業としての性格の部分にもなってくるものである。このような判別も必要であると考えている。

【高橋会長】

実際に地域で行っている事業費からすれば、補助金の額どころではない。それをもって 5 割云々といった話のレベルではないと感じている。今まで行政が主体的に行ってきた事業を、まちづくり振興会が行っているというのが実情である。これに対する補助金であって、これに 5 割云々という話をされてしまうと、何のための地域づくりかわからなくなってしまう。もし、関係者との協議を十分に行わず見直しをするのであれば、協議会としても何らかの形で意見を出さなければいけないと感じている。

【岡田副会長】

人口が減っていく中で歳入があまり見込めないのであれば、一般家庭に例えるなら支出を抑える対応をとることになると思う。しかしながら、行政が歳出を抑えるということは、なかなか難しいことである。オーレンプラザを例にとると、当初の議決予算に対し実際に施工された額はその約 1.5 倍となった。これは、住民の意見を聞いたうえで予算を追加したという説明だが、そもそも行政は予算のプロであり、そのようなことも予測して予算を編成すべきなのではないだろうか。いずれにしても、歳出をなるべく増やさないことが大切ではないかと思う。

【竹下行政改革推進課副課長】

確かにそのようなことも大切であると考えている。適切な対応に努めてまいりたい。

【高橋委員】

この資料を作られた側として、すこやかなまちの未来像をどのように描いているのか、個人的な考えでよいのでお聞きしたい。

【竹下行政改革推進課副課長】

教育や福祉、高齢者医療などは非常に重要なことだと思っている。しかしながら、

限られた財源の中で、基礎的なサービスをしっかり確保していくためには、民間でも提供されているサービスは行政が主体となって行っていく必要性は低いのではないかと感じている。そのような部分の選択というのは、非常に重要になってくるのではないだろうか。10年後、20年後更には次世代という将来を見据えた中でこのような取り組みは行っていかなければならない。地域の皆さんにはこのような趣旨をご理解いただき、賛同を得た上で進めていかなければならないと考えている。

【小酒井行政改革推進課係長】

歳入に対して歳出が不均衡になっている状態であることから、何かしらの取組みを進めていかなければならない。このため、事業の見直しや効率化はどうしても進めていく必要があると考えている。

【高橋会長】

本来、このようなことは休日を返上してでも、半日かけて意見交換をするのが望ましいのではないか。本日は欠席委員が多数いたが、何らかの形で欠席した委員が発言できる機会を与えていただければと思っている。なお、本日の状況については上席へその旨報告をお願いしたい。

【高橋会長】

皆さん、他に質問、意見等はあるか。

ー全委員なしー

【高橋会長】

特にないようなので、報告事項（1）の「第6次行政改革推進計画及び事務事業評価の結果について」は、これで閉じることとする。

ー行政改革推進課 竹下副課長、小酒井係長退席ー

【高橋会長】

続いて、協議事項（1）の「自主審議事項について」協議する。

去る、3月2日に開催された活動報告会において、新たな地域課題の検討を開始した旨説明をした。その後、住民との意見交換を行ったわけだが、その中で出た発言内容が参考資料のとおりまとめられている。これを踏まえ、次年度における取組方針やスケジュール等の案について事務局の説明を求める。

【丸山班長】

・資料No.2に基づき説明

【高橋会長】

今ほどの説明について質問・意見等を求める。

【竹内(靖)委員】

先般開催された、活動報告会の意見交換で感じたことがある。二本木駅の周辺整備についてはあまり浸透性が感じられず、また、学校関係施設の改修や修繕に基金の残額を充てるという考えについても、参加者からはさほど意見が出なかった。これには、少なからずショックを受けたというのが本音である。今後、学校関係施設の改修や修繕を進めていくにあたっては、何かしらPR方法も考えていく必要があるのではないかと思っている。学校関係者のみならず、意見交換の範囲をどこまで広げるのかも視野にいれ、今後調整していただければと考えている。

【古川委員】

子どもが少なくなってきたおり、子どもに関心がない人が多いと感じている。このため、基金の残額を学校へ充てることに反対する人もきつというと思う。広く理解を得るためには、一般の大人にも何かしら恩恵が受けられるようなことをしないと、学校一本ではなかなか理解が得られないのではないか。この辺りをサブテーマで上手く拾い出しをすることが大切だと思う。

【高橋会長】

今回の報告会を通し、住民の関心度は確かに低いと私も感じたところである。しかしながら、反対の意見も特に無かったことから方向性としては間違っていないと考えている。いろいろと意見をいただいたところではあるが、概ね次年度はこのスケジュールに沿って進めていくことでよいか。

－全委員賛同－

【高橋会長】

全委員より賛同いただいたので、次年度はこのように進めていくことにする。

【高橋会長】

皆さん、他に何か質問、意見等はあるか。

－全委員なし－

【高橋会長】

特になければ、協議事項（１）の「自主審議事項について」は、これで閉じることとする。

【高橋会長】

続いて「その他」に移るが、事務局何かあるか。

【丸山班長】

- ・第6次総合計画後期基本計画等説明会について連絡
- ・4区地域協議会委員合同研修会について連絡
- ・地域活動支援事業募集要項（中郷区版）の配布について連絡

【木村所長】

- ・平成31年度人事異動について報告
- ・転出のあいさつ

【小嶋次長】

- ・退職のあいさつ

【城戸G長】

- ・退職のあいさつ

【丸山班長】

- ・転出のあいさつ

【高橋会長】

委員の皆さんから、何かあるか。

【竹内(靖)委員】

道路の維持管理についてお願いしたい。雪解けが進み、道路の陥没が目立ってきている。先日も、知り合いが陥没箇所に車を落とし、車体を傷めてしまった。昔に比べ維持管理が酷いのではないかと私自身も感じている。総合事務所でしっかりとパトロールをし、安全管理に努めていただきたいと思います。

【木村所長】

パトロールによる状況の把握をしっかりと行い、適切に対処させていただく。

【高橋会長】

他に発言がないため、これをもって本日の会議を終了する。

次回の会議は4月24日(水) 午後6時00分から「中郷区総合事務所」で行うこととする。

(終了 午後8時5分)

9 問合せ先

中郷区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL : 0255-74-2411 (内線 165)

E-mail : nakago-soumu.g@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。